

Citation: Carr A, Ebbert J. Interventions for tobacco cessation in the dental setting. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 1. Art. No.: CD005084. DOI: 10.1002/14651858.CD005084.pub2.

CRG名: Tobacco Addiction

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 7 July 2006

Clib issue No.; N/U: 2006 issue 1, Updated

背景: 喫煙は、歯科保健に悪影響がある。歯科診療所や地域現場にいる歯科医療従事者は、喫煙者の禁煙率を改善する、独自の機会を有している。

目的: 本レビューは、歯科診療所か地域現場における、紙巻たばこの喫煙者と無煙たばこの使用者への禁煙介入の効果を評価している。

検索戦略: Cochrane Tobacco Addiction group Specialized Register(CENTRAL)、MEDLINE(1966–April 2006)、EMBASE(1988–April 2006)、CINAHL(1982–April 2006)、Healthstar(1975–April 2006)、ERIC(1967–April 2006)、PsycINFO(1984–April 2006)、National Technical Information Service database(NTIS, 1964–April 2006)、Dissertation Abstracts Online(1861–April 2006)、Database of Abstract of Reviews of Effectiveness(DARE, 1995–April April 2006)、そしてWeb of Science(1993–April 2006)を検索した。

選択基準: 少なくとも6か月以上の追跡を行った、歯科診療所か地域現場における、歯科医療従事者による禁煙介入を評価するランダム化比較試験と準ランダム化比較試験を選んだ。

データ収集と分析: 2人の著者が、独立して、選択の見込みのあるアブストラクトと、選択の見込みのある臨床試験のアブストラクトのデータをレビューした。意見の不一致は、合意により解決した。

主な結果: 6つの臨床試験が、本レビューの選択基準に合致した。歯科診療所か学校地域現場における介入の効果を評価した研究を選んだ。すべての研究は、無煙たばこ喫煙者への介入の効果を評価しており、その中の1つは、紙巻たばこの喫煙者を含んでいた。すべての研究は、行動への介入を採用しており、1つは介入の要素として、薬物療法を取り入れていた。すべての研究は、口腔内診査を行っていた。研究のプールは、歯科保健の専門家による介入は、12か月、あるいはそれ以降の時点における禁煙率を改善する(オッズ比1.44、95%CI: 1.17~1.78)ことを示唆していた。異質性検定の結果は明らかに異質($I^2=75\%$)であったが、これを、サブグループや感受性分析を通じて、適切に説明することはできなかった。

レビューアの結論: 利用可能なエビデンスによれば、歯科診療所や地域現場における、口腔内診査をとともう、歯科医療従事者による喫煙行動への介入は、無煙たばこ使用者の使用率を改善しうる。研究間にばらつきがあるため、臨床に組み込むべき介入についての決定的な勧告には至らない。

(翻訳 南出 保・監訳 望月友美子;JCOHR)

翻訳公開日: 2010年7月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは毎月、改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。